

大桃敏行教授退職記念号刊行によせて

大桃敏行教授が2017年3月末日をもって東京大学を退職され、学習院女子大学に転出されました。

2009年4月のご着任以来、附属中等教育学校校長、教育学研究科長・学部長等、大学運営の要職を歴任される傍ら、文字通り学校開発政策コースの支柱としてコース運営にご尽力され、多数の大学院生をご指導いただいたことに心より感謝申し上げます。

大桃教授の研究上のご功績については、改めて申し上げるまでもありません。東北大学から博士学位を授与された論文を基にした主著『教育行政の専門化と参加・選択の自由—19世紀後半米国連邦段階における教育改革論議—』（風間書房、2000年）をはじめ、分権・規制改革、住民参加、ガバナンス改革等の課題への対応が迫られるなかで変容を遂げる公教育の精緻な分析から、私たちは常に多くのことを学んできました。また、東京大学にご着任以降は、教育学研究科の大型研究プロジェクトにおいて中心的な役割を担われました。2011～13年度は「社会に生きる学力形成を目指したカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」の総括ユニット・リーダーとしてプロジェクト全体の進行を掌るとともに、現代日本における教育課程制度に係るイノベーションの一つである教育課程特例校に注目して研究を進め、その研究成果を『教育現場に革新をもたらす自治体発カリキュラム改革』（学事出版、平成26年）として出版されました。続く平成2014～16年度には、研究代表者として「ガバナンス改革と教育の質保障に関する理論的実証的研究」を文字通り主導し、教育理念、教育内容・方法、教育行政・政策、社会教育・生涯教育などの諸領域を横断する共同研究を推進されました。その研究成果は、近く東京大学出版会より出版される予定です。大桃教授は、こうした研究プロジェクトにおいて大学院生との共同研究を積極的に進められ、若手研究者の実践的な育成にも大きな功績を残されました。

本コースでは、今後も様々な形で大桃教授にご指導を仰いで参りますが、この機会を一つの区切りとして、本号を退職記念号といたしました。特集として、2017年3月3日に行われた最終講義の内容を収録しています。大桃教授が一貫して探究されてきた、教育における平等とはいかなるものであり、それは誰がどのように保障するのかという基本問題にテーマとしています。特集には、前任校の東北大学で大桃教授のご薫陶を受けた後藤武俊・東北大学大学院教育学研究科・准教授に、ご多忙のところ、貴重な論稿をご寄稿いただきました。ありがとうございます。あわせて、本コースでご指導を受けた福嶋尚子・千葉工業大学・助教と宮口誠矢・大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員の特集論稿も掲載しています。また、本号には、特集の他に個人・共同研究論文、研究ノートも掲載しています。読者の皆様には、ご忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、大桃教授の益々のご健康とご活躍を祈念するとともに、関係各位に今後も引き続き本コースへのご指導、ご鞭撻をお願いして、大桃教授退職記念号刊行の辞といたします。

2017年10月

学校開発政策コースを代表して 勝野正章